

8月  
10日

## 大分キャノン株式会社が創立30周年



(左から) 川崎さん、三河市長、西澤さん

安岐町の大分キャノン株式会社(村野誠社長)が創立30周年を迎えたのを記念して、地元国東市へ同社で製造しているデジタルカメラのセットを寄贈していただきました。同社は、1982年2月の創立以来、カメラの基幹工場として主力商品の生産を続けています。

8月10日(金)、同社総務課長の川崎隆治さんと経営企画課部主幹の西澤章さんが市役所を訪れ、三河明史市長へ記念のカメラを手渡しました。三河市長は「国東のすばらしさを写真に収め、観光PRをしていきたいです」とお礼を述べました。

## 熱い演奏で龍神サマーフェスティバル

8月  
5日

8月5日(日)、第2回龍神サマーフェスティバルが、龍神プロジェクト(有次昭二会長)の主催で、武蔵町内田の龍神海水浴場で開催されました。

メインイベントのバンドコンテストには、市内外から10チーム(高校生4、一般6)が出演し、熱のこもった演奏が繰り広げられました。また、ビーチではソーメン流し、カヌー教室、宝探しなどの多彩な催しも行われました。



7月  
25日

## 岐部<sup>うし</sup>丑の会の皆さんがくにみ苑でボランティア



7月25日(水)、国見町岐部のボランティアグループ「岐部<sup>うし</sup>丑の会」の皆さんが、市養護老人ホームくにみ苑で、ボランティア清掃作業を行いました。この日は、夕方とはいえまだ暑い中、メンバー9人が参加して、約1時間30分ほど草刈りや垣根の剪定作業に汗を流しました。

地元岐部地区の皆さんが参加して平成8年に発足した同会は、入所者の皆さんが快適に過ごせるようにと、毎年この時期に、くにみ苑での清掃活動を行っています。

## 巨大な流木処理に力強い“助っ人”

8月  
23・24日

8月23日(木)・24日(金)の2日間、大分県木材協同組合連合会が、7月の豪雨で武蔵港沖に流れ着いた流木をボランティアで処理しました。

処理された約50本の流木は、根のついたままの杉やヒノキで、中には長さ10メートル以上の巨大なものもありました。これらは、県漁協武蔵支店の組合員が、漁の妨げになるために沖合の流木を船で引き上げ、武蔵港の市有地に仮置きしていたものです。

連合会の職員など6人が大型のチェーンソーを使い、トラックで運搬できる大きさに切断していきしました。切断された流木は、連合会組合員の事業所で、木材として利用され、根の部分などはチップ処理して燃料として再利用されるとのことです。

